



# 千葉大学大学院薬学研究院・薬学部 沿革



- 明治23年 7月 第一高等中学校（千葉市亥鼻地区）に薬学科が附設。
- 明治27年 9月 高等学校令の改正により、第一高等学校医学部薬学科となる。
- 明治29年 3月 卒業生には薬学得業士の称号（明治33年迄）。
- 明治34年 4月 千葉医学専門学校薬学科と改称。



実習風景（明治44年）



講義風景（大正4年）



大正8年頃の校舎

- 大正12年 4月 官立医科大学官制改正により、千葉医学専門学校は千葉医科大学に昇格、薬学科は千葉医科大学附属薬学専門部と改称。

- 昭和6年11月 校舎新築移転。

- 昭和16年10月 修業年限臨時短縮（昭和16年度は3ヶ月短縮して12月に卒業）。

- 昭和16年11月 修業年限臨時短縮（昭和17年度は6ヶ月短縮）。

- 昭和16年12月 太平洋戦争開戦。

- 昭和20年 8月 第二次世界大戦終戦。

- 昭和21年 在学期間旧に復す（昭和21年は卒業生なし）。

- 昭和24年 5月 国立学校設置法公布により、千葉大学が設置。

千葉医科大学附属薬学専門部を母体として薬学部薬学科（4年制）の設置（初代学部長は宮木高明教授）。1学年の定員は40名（男女共学）。

旧専門部は廃止（昭和27年には卒業生なし）。

- 昭和31年 3月 入学試験期日が一期校となる。

- 昭和31年 4月 薬学専攻科設置（修業年限1ヵ年）。

- 昭和35年 7月 亥鼻地区から千葉市矢作町地区旧医学部基礎教室跡に移転。旧校舎改装後は、泌尿器科及び肺癌研究施設が使用。

- 昭和39年 4月 大学院薬学研究科修士課程が設置（1学年の定員は18名）。薬学専攻科廃止。



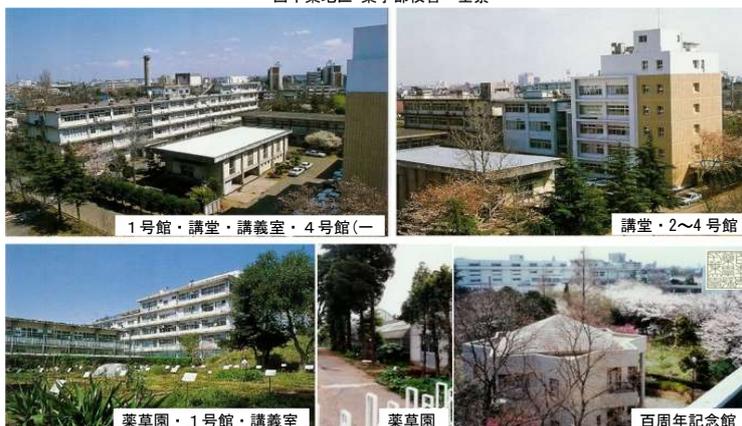
- 昭和41年 3月 千葉市弥生町地区（西千葉地区）に新校舎竣工。
- 昭和41年 4月 薬学部製薬化学科（1学年の定員は40名）を増設し2学科制となり、薬学科と製薬化学科を合わせて1学年の定員は80名に増員。
- 昭和41年 7月 西千葉地区に竣工した新校舎に矢作地区から移転。
- 昭和42年 9月 製薬化学科の研究室・実習室が竣工。  
製薬業界・同窓生・教職員の寄付金により講堂が竣工し（昭和42年3月）、落成式を挙げる。
- 昭和45年 3月 大学院薬学研究科修士課程に製薬化学専攻が増設（1学年の定員は26名）。
- 昭和46年 3月 大学院薬学研究科修士課程に生物活性物質学（千葉大学腐敗研究所の科目）が統合（1学年の定員は27名）。
- 昭和51年 5月 薬学部附属薬用植物園の設置。
- 昭和51年10月 薬学系博士課程設置特別調査委員会要項が制定。
- 昭和53年 4月 大学院薬学研究科修士課程に増員（1学年の定員は28名）。
- 昭和54年 1月 大学共通一次学力試験の導入。
- 昭和54年 4月 薬学部薬学科と製薬化学科を総合薬品科学科に改組（1学年の定員は80名）。  
大学院薬学研究科博士課程の設置（1学年の定員：博士前期課程は29名、博士後期課程は12名）。
- 昭和57年 3月 大学院講義室と研究棟が竣工。
- 昭和61年 4月 千葉大学が当番校として、日本薬学会第106年会を開催。
- 昭和62年 1月 カナダ・アルバータ大学薬学部と部局間交流協定締結（平成8年9月に大学間交流協定締結）。
- 昭和62年 5月 故北川晴雄薬学部長（4月6日死去）の薬学部主催追悼式を挙げる。  
生物活性研究所（旧腐敗研究所）の真核微生物研究センター組織転換に伴い、同研究所の薬学関係3研究部門（うち1部門は4月から）が薬学部に統合（薬学部の講座整備）。
- 平成 元年 3月 薬学部4号館完成。
- 平成 元年 7月 薬学部創立百周年記念式典・祝賀会を挙げる。
- 平成 元年11月 百周年記念館が完成。
- 平成 2年 1月 大学入試センター試験の導入。
- 平成 2年 4月 タイ・チュラロンコーン大学薬学部と部局間交流協定締結（平成12年9月に



大学間交流協定締結)。

- 平成 2年 10月 千葉大学薬学部同窓会が発展的に解消し、教職員を含む新しい同窓会組織として薬友会が発足。
- 平成 2年 11月 千葉大学が当番校として、第34回日本薬学会関東支部大会を開催。
- 平成 6年 4月 教養部廃止により教養部の2研究室を薬学部へ統合。
- 平成 6年 6月 薬学部附属薬用植物園の改組により、薬学部附属薬用資源教育研究センターが設置、そして薬用資源教育センターの2研究室が薬学部へ統合。

西千葉地区 薬学部校舎 全景



- 平成 8年 2月 タイ・チェンマイ大学薬学部と部局間交流協定締結 (平成 27年 6月に大学間交流協定締結)。
- 平成 8年 2月 中国・中国薬科大学薬学院と部局間交流協定締結。
- 平成 9年 4月 大学院独立専攻 (医療薬学) が大学院薬学研究科博士前期課程 (1学年の定員は18名) と博士後期課程 (1学年の定員は8名) に設置され (平成 11年 4月より博士後期課程学生の受入)、2研究室が新設。  
大学院薬学研究科に総合薬品科学専攻長と医療薬学専攻長を設置。  
前期・後期日程学部入試に加え、特別選抜入試として、帰国子女特別選抜および推薦入学制度を導入。
- 平成 12年 4月 タイ・マヒドン大学薬学部と部局間交流協定締結 (平成 20年 10月に大学間交流協定締結)。
- 平成 13年 4月 大学院薬学研究科と大学院医学研究科を同時に改組：  
大学院教育組織として、医学薬学融合型の大学院医学薬学教育部 [修士課程 (総合薬品科学専攻 1学年の定員 45名と医療薬学専攻 1学年の定員 22名の2専攻 計 67名)、4年博士課程 (環境健康科学専攻・先進医療科学専攻・先端生命科学専攻の3専攻 1学年の定員 123名)、後期3年博士課程 (創薬生命科学専攻の1専攻 1学年の定員 13名)] および大学院研究組織として、大学院薬学研究院 [3研究部門 9講座 25研究室 (国立環境研究所・かずさDNA研究所の2つの連携協力講座を含む)] が設置。

大学院医学薬学府博士課程に修業年限短縮制度申請手続きを制定。

薬学部附属薬用資源教育研究センターが大学院医学薬学教育部に移行。

平成14年 2月 オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学 HIV 疫学・臨床医学ナショナルセンターと部局間交流協定締結。

平成14年 3月 千葉大学が当番校として、日本薬学会第122年会を開催。

平成14年12月 タイ・シルパコーン大学薬学部と部局間交流協定締結（平成23年3月に大学間交流協定締結）。

平成16年 2月 中国・瀋陽薬科大学と部局間交流協定締結。

平成16年 4月 国立大学法人法の施行により、千葉大学は国立大学法人千葉大学に改称。大学院医学薬学教育部を大学院医学薬学府に名称変更。

亥鼻地区に医薬系総合研究棟Ⅰが竣工し、西千葉地区より約半数の12研究室が移転。



医薬系総合研究棟Ⅰ用地での遺跡発掘



遺跡発掘説明会



医薬系総合研究棟Ⅰ竣工

平成16年 7月 医薬系総合研究棟Ⅰの竣工記念式典・祝賀会を挙げる。

平成16年10月 千葉大学が当番校として第48回日本薬学会関東支部大会を開催。

西千葉地区薬学部3・4号館がフロンティアメディカル工学研究開発センターに管理換え。

平成17年 4月 大学院医学薬学府修士課程（医学系）医科学専攻（1学年の定員は20名）を設置。

平成17年10月 平成17～18年度文部科学省大学院GP 魅力ある大学院教育イニシアティブプログラム事業「情報集積型医療創薬を担う若手研究者の育成」が採択。

平成18年 4月 全国薬学部・薬科大学への薬学6年制教育導入に伴い、薬学部総合薬品科学科を改組 [6年制薬学科（1学年の定員は40名）と4年制薬科学科（1学年の定員は40名）の2学科に]。

前期・後期日程学部入学者（1学年の定員80名）の3年次進学時に進学振分けを導入。

平成19年 9月 平成19～21年度文部科学省大学院GP 大学院教育改革支援プログラム事業「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」が採択。

平成19年10月 大学院医学薬学府4年博士課程と後期3年博士課程で10月入学を実施。

- 平成19年12月 平成20～24年度文部科学省研究推進事業「”FOR SPECT” 新規標識プローブの開発による医薬イノベーションの創出～分子イメージングを利用したがんの診断・治療の促進～」が採択。
- 平成20年 4月 薬学部の転科手続きの制定。
- 平成20年 6月 平成20～24年度日本学術振興会 国際的に卓越した教育研究拠点形成のための重点支援 千葉大学グローバルCOEプログラム「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」が採択。
- 平成21年 5月 フィリピン・サント・トマス大学理学部・大学院・自然科学研究センターと部局間交流協定締結。
- 平成21年10月 大学院薬学研究院の研究組織を改組（医療系講座を1講座増やし、3研究部門10講座27研究室）。
- 平成22年 2月 平成22～26年度日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「アジアにおける最先端有機化学の新展開」が採択。
- 平成22年 4月 大学院医学薬学府修士課程（薬学系）の2専攻を総合薬品科学専攻（1学年の定員は50名）1専攻に改組し、修士課程（医学系）医科学専攻に増員（1学年の定員27名）。
- 大学院医学薬学府修士課程（薬学系）で10月入学を実施。
- 大学院医学薬学府4年博士課程3専攻の1学年の定員を123名から108名に変更（薬学系の1学年の定員は8名）。
- 寄附講座(国際臨床開発・規制科学)の開設。
- 平成22年 5月 韓国・ソウル国立大学薬学部と部局間交流協定締結（平成23年8月に大学間交流協定締結）。
- 平成22年 9月 マレーシア・マレーシア国立大学健康科学部・薬学部・科学技術部と部局間交流協定締結。
- 平成23年 7月 薬学部創立120周年記念講演会・祝賀会を実施。
- 平成23年11月 医薬系総合研究棟 II の竣工記念式典・祝賀会を挙る。
- 医薬系総合研究棟 II 及び創立120周年記念講堂の内覧会を実施。
- 西千葉地区に残る全研究室と事務部が移転し、薬学部・薬学研究院の亥鼻地区への移転が完了。



屋根飾りが亥鼻に移設（奥に体育



医薬系総合研究棟 II と屋根飾り



医薬系総合研究棟 I（奥）と医薬系総合研究棟 II（手

- 平成24年 4月 薬学部薬学科と薬科学科にそれぞれ学科長を設置。
- 大学院医学薬学府4年博士課程 環境健康科学専攻・先進医療科学専攻・先端生命科学専攻の3専攻を先端医学薬学専攻の1専攻4コース（1学年の定員108名のうち薬学系は8名）に改組し、後期3年博士課程は1学年の定員13名から15名に増員。
- 平成24年 9月 平成24～28年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業「実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム」が採択。
- 平成24年10月 平成24～30年度文部科学省補助金事業 千葉大学博士課程教育リーディングプログラム「免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム」が採択。
- 平成24年12月 タイ・シルパコーン大学薬学部との博士学位（ダブルディグリー）取得協定の締結。
- 平成25年 4月 マツモトキヨシHD 寄附講座（医薬品情報学）の新設。
- 平成25年 9月 帰国子女対象の薬科学科9月入学（秋入学）特別選抜入試を導入。
- 平成25年11月 中国・香港バプティスト大学中国医薬学部と部局間交流協定締結。
- 平成26年 8月 ブラジル・サンパウロ州立大学薬学部と部局間交流協定締結。
- 平成27年 1月 タイ・マヒドン大学薬学部と博士学位（ダブルディグリー）取得協定の締結。
- 平成27年 4月 国際創薬学研究室（外国人教員）を新設し、薬学研究院の改組（3研究部門5講座25研究室）。
- 平成27年 9月 平成28年度～千葉大学戦略的重点研究強化プログラム「ファイトケミカル植物分子科学」が採択。
- 平成28年 3月 千葉大学薬学部薬学科6年制教育プログラムに対して、薬学教育評価機構による第三者評価の実施が行われ、評価基準に適合と認定（認定期間は平成35年3月31日迄）。
- 平成28年 4月 千葉大学が「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を機能強化の中核」とする第3群の国立大学に分類され、年度ごとの評価が開始。
- 授業カレンダーにターム制（1T～6T）の導入。
- 大学院医学薬学府修士課程（薬学系）に修業年限短縮制度申請手続きを制定。
- 平成28年 6月 インド・SRM大学理工学部と部局間交流協定締結。

- 平成28年 9月 平成28年度千葉大学教育GP「グローバルエイジング時代の地域包括医療ケアを支える先導的薬剤師育成プログラムの開発：世界へ発信できる教育モデルの開発を目指した取組」が採択。
- 平成28年10月 大学院医学薬学府4年博士課程先端医学薬学専攻（1学年の定員は108名）に先進予防医学共同専攻（1学年の定員は10名）を追加設置。  
タイ・シーナカリンウィロート大学薬学部と部局間交流協定締結。
- 平成29年 7月 平成29年度～千葉大学リーディング研究育成プログラム「千葉大学糖鎖創薬研究拠点の創成」が採択。
- 平成30年 4月 学部特別選抜入試として、推薦入学制度を6年制薬学科（1学年の定員は10名）、後期日程入試を4年制薬科学（1学年の定員は10名）とし、前期日程入学者（1学年の定員は60名）は3年次進学時に、薬学科（1学年の定員は30名）および薬科学科（1学年の定員は30名）への進学振分けを実施。
- 令和元年 11月 令和元（2019）年度 卓越大学院プログラム「革新医療創生CHIBA」が採択。

